

松蔭 校長室だより

2025年 12月 1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井宣光

惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです（コリントの信徒への手紙Ⅱ9：6 松蔭中高 11月の月間聖句）

生徒のちから

先月末、学校の最寄り駅 JR「灘」駅前の交差点でバイクと自転車の接触事故がありました。下校中にいあわせた松蔭生がいはやく携帯で119番通報して救急車を要請したそうです。現場の様子をご覧になっていた方が、名前を聞いてはいないが生徒らが大人よりも立派に振舞うようすに大変感激したとおっしゃって、わざわざ学校までご連絡くださいました。

「うれしい電話ですね」「だれだろう？」職員室で話していたところ、2名の生徒だと分かりました。入学以来、彼女らと接してきた先生に伺うと、「彼女たちならしっかりやりますよ」という答えが返ってきました。私自身も、彼女らがこれまで取り組んできた探究のプレゼンを参観したり、日常のようすから「発表する力」や「対話力」の高さを感じたりしていましたので納得しきりでした。

松蔭高校が育成したい生徒像として設けている「ディプロマポリシー（卒業までに身につけてほしい力）」には、「課題を発見し、それに対して自分の意見を持ち、その考えを状況に応じた適切な形に変えて社会に発信できる力」や、「課題解決能力（課題発見力、思考力、判断力、計画力、目標達成力）に優れ、自ら道を切り拓くことができ、なおかつ国内外で他者との関りにおいても柔軟に対応し、国際社会に貢献しようとする姿勢」などがあります。着実に近づいているように感じる出来事でした。

（「ディプロマポリシー」など参考資料はこちら [高校3コース ポリシー | 松蔭中学校・松蔭高等学校](#)）

SNSと中高生 研修会の内容から

現在の中高生はデジタルネイティブ世代と言われますが、特に低年齢化が年々急速に進行している実情を感じています。NTTドコモによれば、日本の小学校高学年児童のスマホ所持率は43%。私の自宅近隣でも先日、小学生が自転車に乗りながら「ながらスマホ」をしている姿を見かけて驚きました。中学入学後はほぼ100%に近い所持率になっており、そうなると思わずInstagram・LINE・TikTokなどSNSに「どっぷり」とはまるのが常でしょう。現在の高校生が小学生だった時代と、現在の小学生とでは、デジタルを扱う状況が全く異なるように思います。

さて、SNSをやっている中高生全員が問題行動を起こすわけではありませんが、トラブルがあれば必ずSNSが絡んでいる、という点については納得するところです。ユーザーのフォローに「いいね」やコメントからはじまるやりとりから、いじめや個人情報漏洩、プライバシー侵害、誹謗中傷を受ける危険性、さらには性被害への発展の可能性などが社会問題となっています。諸外国では、法律による規制が始まっています。オーストラリアでは今月10日より、16歳未満の子どもがSNSのアカウントを持つことを禁じる法律が施行されます。保護者が同意していても16歳未満であれば禁止です。米国のいくつかの州、ヨーロッパでもデマークなどで同様の規制が行われ方向で議論されています。

若者世代がSNSの世界でどのように友達とつながっているのか、どのような付き合い方をしているのか、どのような問題点があるのか、周囲の大人が実情を知り、理解しながら子どもたちと接することで、彼ら彼女らの心に寄り添うこともできるように思います。先日、兵庫県の私学の先生方の研修会で「中高生のSNS利用とその影響」についての講演を聞きました。対面で人と「つながる力」がSNSに「はまる」ことで、さらに弱くなっている実情。子どもたちのSNS使用を規制しても抜け道はあるし、いったんSNSに「はまれば」、そこから抜け出すことはできないこと。また身近にある関係においても、特定のグループ内のSNSでは、過剰に相手に合わせることが大きなストレスになったり、一方で文字だけで関係を断ち切る文面を送ったりしてトラブルが起こりがちである、という内容でした。「いつメンで」「みんなそう言ってる」「うざい」といった言葉を思い出しました。結論として、SNSの使い方や利用時間を規制するのではなく、「SNSどっぷりってやばいぞ」と自分自身が気付くことがポイントだということでした。

た。「つながる力」を適切に育むプログラムの実施や、学校行事の際にはこの点へ配慮した運営をこころがけたいと思います。保護者の皆様のご意見をお聞かせください。

期末考査直前の職員室前で先生に質問。教室でも居残り勉強をする生徒を見かけました。(11/27撮影)

